

生体電磁環境研究及び電波の安全性に関する評価 平成 30 年度新規課題に係る採択評価書

研究機関	明治薬科大学、首都大学東京、電力中央研究所
研究開発課題	中間周波における遺伝毒性等の生物学的ハザード同定に関する調査
研究開発期間	平成 30～33 年度

■ 実施可能性 : 適

■ 総合順位 : 1位 / 提案者1者【採択】

(評価点 : 30.9点 / 40点)

(総論)

- ・中間波の安全性評価とその基準作りに貢献が期待される提案である。
- ・ばく露装置の開発と生体影響の検出・測定が遺伝毒性を主体に、よく計画されている。

(コメント)

- ・中間周波85kHzの高出力バースト磁界発生装置の開発及びそれによる小動物実験による遺伝子毒性等の研究が計画されており、期待できる。
- ・これまでの研究実績が豊富であり、計画や体制も妥当で、研究を推進することができると判断される。
- ・ばく露条件(時間、強度、期間)は、事前の検討を十分に行う必要がある。